

会議録

日時	令和5年6月21日(水) 14:00~16:00
場所	総合文化センター 視聴覚室
件名	令和5年度 第2回社会教育委員会定例会
出席者	社会教育委員:小栗正敏、加藤一哉、湯原定雄、渡邊啓介、松浦大哲、岩島留美子、安藤裕子、有賀秀雄、伊藤孝一、有賀雅美 欠席:浅沼克郎 市関係者:小栗茂(中央公民館長)、奥谷ひとみ(社会教育課長) 事務局:藤井志保(社会教育課課長補佐)、川畑篤仁(同主査)
議題	<p>1 挨拶</p> <p>2 研修(ぎふ地域学校協働活動センターによる支援プログラム) 研修テーマ「地域学校協働活動とは…」 講師:高山市大八まちづくり協議会事務局(コーディネーター) 山本真紀氏</p> <p>〈質疑〉</p> <p>問 瑞浪では地区独自の公民館を持たない地区がある。職員が公民館にいと、様々な活動がしやすい。また拠点に関しては学校にあるといいのでは、と常々考えている。講師の地区では学校敷地内に常駐していると聞き大変うらやましい。学校と教育委員会の理解が大きいと思うが、その辺がどういう風であったか伺いたい。</p> <p>また、地域学校協働活動は学校の支援者(応援団)ではない、と頭では理解していても、実態はそうでないこともある。学校側が困っていることを話題にして、それを解消していく手立てを一緒に考えて実践していくことも一つの方法ではないか、と考える。その辺のところをお話いただければ</p> <p>答 高山市にはいわゆるコミュニティーセンターや職員の常駐する公民館がない。生涯学習や社会教育は、まちづくり協議会の前身である社会教育協議会が担っていて、各小学校内に拠点が存在していた。他市で公民館が行っているような事業は、高山市ではまちづくり協議会が担っている。事務局は学校とは別棟だが敷地内にあり、管理職の先生とは毎日顔を合わせるため関係性が構築できている。学校の先生は異動があるため活動の継続が難しいという面もある。これまでの担当者的ながんばりの積み重ねで成り立っている。異動してきた先生も、はじめは地域の行事があって大変、と口にするが、一緒に活動した方が学校も負担が楽になったり、子どもの喜ぶ姿を見たりして、次第に好意的に理解していただける。そして学校のカリキュラムに活動を組み込んでいただけるようになる。</p> <p>学校支援地域本部という組織がかつてあった。最初から協働して活動しましょう、では学校の先生もつらい。学校の応援団だけになってはいけないが、学校の応援団であっても良いと思う。学校の応援団でもあるし、協働活動もしましょうという方が活動も進みやすい。学校側が困っていることから取り組んでいくとよいのでは。地区の中で全校児童13人の学校がある。3年以内に統廃合する予定で進んでいる。統廃合するときこそ、地域学校協働活動で生まれたつながりが重要である、と校長先生が言っていた。</p> <p>問 今あるものを活用すればいいという話の中で、我々の地区で、コロナ禍を経て、これまでまちづくり協議会が実施していた地域のある行事をやらないことになった。これから地域の活動を盛り上げようという流れに逆行しているのでは、と感じた。協議会の中でも動ける人が少なくなってしまった</p>

からどうしようもないようである。どう対処したり、気持ちを切り替えたりしたらよいか。

答 地域学校協働活動とまちづくり、という両方の側面がある。コロナ禍は一つの節目であった。「地域おこし」や「町おこし」が盛んな時代もあったが、今は「多様性」とか「持続可能性」といった価値観へ変わってきている。時代に合わせた活動をしていくことが重要で、コロナ禍でやらなかったこと、できなかったことが本当に地域にとって必要なものなのか考えるきっかけになった。会議なども一堂に集まるのではなく、分散開催することによって、新しい見方も入ってきたという側面もある。必要なものを取り入れてカスタマイズしていくという方法もある。従来の大規模な行事ではなくて、何か小さいことだったとしても、地域の大人と子供と一緒にできることを会議で提案していくことも一つの方法と言える。地域で消えかかっていることを復活させることは我々も苦慮している。コロナ禍では不要不急のことはやらないで、と行政から要請があったが、反対の考えで、「防災」は不要不急ではなく必要なこと、ということで我々は防災教育を進めた。手詰まりを感じる時は子供たちの意見も取り入れて新しいことを考えてみることも一つの方法。瑞浪市から新しい取り組みが生まれた、と聞けるのを楽しみにしている。

問 地域学校協働本部と聞くとどうしても会議であったり場所であったりすることを考えてしまうがその点をどう捉えているか。

また説明の中で、地区の3校で一つの地域学校協働活動本部を作っているとあったが、学校運営協議会も3校で一つの会議を開いているのか、3校それぞれで協議会が開かれているのか。

答 東山校区では学校運営協議会も一つで運営している。コミュニティスクール＝地域学校協働本部というように一体型で運営している。その中で学校ごとの部会を設けている。

問 学校運営協議会の中で、地域学校協働活動の運営方針も議論しているところもあった。例示があるか。

答 地域で決めていただければかまわないと考えるが、文科省が定めるところには、学校運営協議会は学校長の学校運営に対して意見を言ったりする、教職員の採用に対して意見を言ったりできる、とある。元々の制度であった学校評議員会の延長線上であったりする。

地域学校協働本部は地域側で実際に活動を行うところであるが、地域で二つ組織を立ち上げることは難しい。うまく機能しているな、と思うのは一体型で運営しているところが多い。学校運営協議会が熟議もするし、企画もするし、活動もしますよ、というのが上手くいっているケースが多い。厳密に言えば学校運営協議会は熟議をする場、地域学校協働本部は活動する場であるが、地域に合わせてカスタマイズすれば結構だと考えている。

3 協議

<協議内容>各学校の学校運営協議会に実施するアンケート内容について

【社会教育委員会で調査研究すること】

・地域学校協働活動の推進がどのように図られているか。

各学校運営協議会及び地域学校協働活動の年間計画は？

地域学校協働活動推進員の関わりは？

・人づくりや地域づくりにどのように関わってもらえるといいのか。

どのような組織や団体と繋がっているのか？

実際の活動の中での課題は何か？

課題を解決するための方途は？

<協議方法>・・・KJ法にて協議し、調査研究内容の答えに繋がるアンケート内容について検討する。

〈チーム1で出た案〉

- ・どんな役職、立場の方が地域学校協働活動推進員になっているか。
- ・今後の地域学校協働活動の見通しはどうなっているか。
- ・組織の中の部会はどのようなか。
- ・年間計画は部会ごとの計画も立てているのか。
- ・学校と地域の行事の調整をどのようにしているか。
- ・委員の願いや思い、悩み、困っていることはどのようなか。
- ・今後も継続していきたい活動は何か。
- ・関わりのある地域の別の組織はあるか。
- ・どのようにボランティアの募集をしているか、またどのような方に参加していただいているか。
- ・地域住民の意見や思いをどのように聞いて協議会に反映しているか。受付窓口はあるか。
- ・学校として支援してほしい活動はあるか。
- ・職場研修で企画や提案の意見は出ているか。
- ・防災や交通安全教育、草取り、校内の整備など協力してほしい事柄があるか。
- ・後継者をどのように育成しているか。

〈チーム2で出た意見〉

- ・どのような立場で委員になったか、協議会での役割を認識できているか。
- ・各委員、会長の役割が明確になっているか。
- ・年間計画は誰が主体となって作成しているか。
- ・学校が地域に期待することや、目指す子ども像は明確になっているか。
- ・委員としてやりがいを感じているか。
- ・地域学校協働活動について、具体的にどのような活動を考えているか。

代表 今回実施するアンケートでは、各地区のいいところや参考になるところを引き出して各地区に広めたい、という意図もあるので、本定例会で出た意見以外の項目もアンケートに入る可能性があることをご了承いただきたい。

4 今後の見通しについて

5 その他

8月22日 岐阜市立岐阜小学校視察について

6 閉会の言葉(副代表)

次回(第3回定例会)・・・

日時:8月22日(火)8時30分～

集合場所:総合文化センターロビー